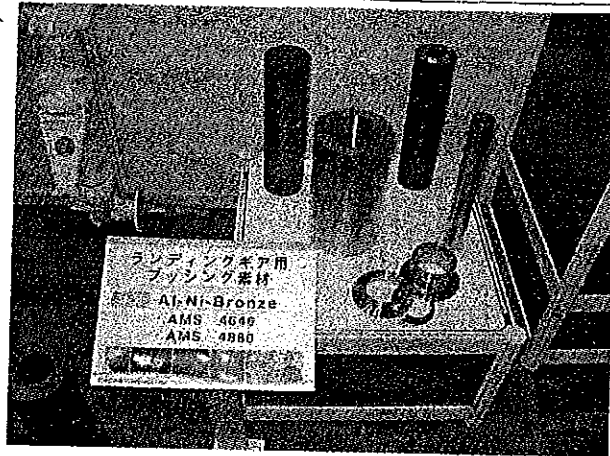


# 大和合金 航空機向け銅系鍛造品 売上げ倍増へ海外拡販



ランディングギア用の押出・鍛造品

銅合金鍛造品メーカーの大和合金(本社・萩野茂雄氏)は航空機

向けの押出・鍛造品の販売で中国・欧州など海外での拡大を目指している。これまでは国内販売が中心だった。航空機の生産台数は世界的に長期間にわたり増加が見込まれており、成長分野を開拓することが狙い。今後3年で同市場の主力製品であるランディングギア用の押出・鍛造品の出荷を倍増させる。萩野源次郎常務は「輸出の強化で生産規模を拡大すれば、コスト面で国内顧客にもメリット

が出せる」と話している。

同社が航空機向けに供給しているのはブッシュと呼ばれる円筒形の押出・鍛造品。航空機の整備工場が軸受

けに加工しており、一機あたり約1千個を使用する。年間15万を生産し20年以上前から納入実績があったが国内向けに限られていた。新市場の開拓に向け昨年からは海外の整備会社に対してもPRを強化。海外の展示会にも積極的に出展している。下期には中国の大手整備会社から製品の認定を取得。来年度はドイツやイギリスで開催される航空関連の展示会にも参加を検討している。現在はアルミ青銅の鍛造品が中心だが、将来的には独自開発のNi-C合金の投入を模索。鋼にニッケル・シリコン・クロムを添加した高強度・高熱伝導の性質を生かし、既存の自動車関連に加えて新たな分野に期待する。航空機向けのメイン工場は埼玉県の朝霞工場。生産能力に余裕があるため、新規受注の拡大

で稼働率を上げればコストの削減にもつながる。

(2010.3.26 鉄鋼新聞)

